

英語の発音と歌の会

—英語と日本語の発音の違いを知ろう—

発音矯正法発案者の経験

ロサンゼルス在住の日系一世の方がこの矯正法を発案しました。彼は、優秀なコンピューターの営業マンでした。契約の前段階までたどり着きますが、どうしても契約が成立しません。自分の弱点は何かと考えた時に、自分はネイティブのような発音できていないことに気づきました。彼独自に英語の音を分析して、その分析した音が身に着くにつれて、彼の営業成績が上昇したそうです。

そして、講座の中では、よりよく理解できるように映像を使い、口の形、音、文字を可視化しています。

この講座を開こうと思ったきっかけ

この発音矯正のクラスに通った時に、子音は多少ずれても、聞き取ってくれますが、母音が違えば、まるで違った単語になります。たとえば、講座の時に、McDonald の発音が知りたいと質問されました。カタカナでは、マクドナルドですが、英語音表記をすると、マクダーナルドとなります。ドとダだけの違いですが、耳には、まるで別物のように聞こえます。その違いを的確に表している方法を身につけることは、重要だと思いました。

英語そのものを速く習得したいと思う方も多いですが、発音がしっかりできることで、聞き取りも確かなものとなり、英語の音がより身近のものとなります。一見、遠回りをしているかもしれませんが、的確な英語を身につけるには、実質的にはこの方法が早道になります。

そこで、発音の重要性を多くの人に知ってもらい、人々の発音力を高めることで、真の英語力を持った人を一人でも多く育成したいと思ったのがきっかけです。

具体的な講座の内容

8つの口の形と8つの舌の位置の組み合わせで英語の音を作り出し、日本語との差を分かり易く理解できます。楽しみながら練習できるように歌を歌い、顔の筋肉を鍛えて英語の音が自然に出てくるのを目標にしています。この講座では、対象者を小学校前の子供、小学生、大人の3コースに分けました。

KOALA ENGLISH (平成28年1月10日実施)

3歳から6歳までの子供たちが保護者と一緒に参加してくれました。

親子で一緒に鏡をのぞき込みながら口の練習をする姿が、とてもほほえましかったです。この時期は、音に一番敏感の時なので、英語と意識せずに聞いた音をそのまま上手に発音できるようになります。

STABLE ENGLISH (平成28年1月17日実施) 対象は小学生でした。

ダンスをしながら英語の歌を歌うのが一番楽しそうでした。日本語の力がついてきて、聞きなれない音を日本語の音に置き換えるようになってきているため、本来の英語の発音が難しくなっていく時期です。この時期には、英語独特の発音方法を習得してほしいです。

AIR ENGLISH (平成28年2月14日・21日実施)

対象は、大人でした。

皆さん、積極的に声を出してくれました。外国人と話すときにどうして英語が通じなかったのか、リスニングの練習をしているときにどうして聞き取れなかったのかという理由が理解できたと思います。すべての講座を通して、参加者が発音に興味を持ち、これからも発音の学習に取り組みたいと知って、勇気づけられました。

